

先天股脱予防に関する研究

内藤 寿七郎 (愛育研究所)
澤田 啓司 (愛育病院)
平山 宗宏 (東大)
今村 栄一 (国立小児病院)
村上 宝久 (国立小児病院)
石田 勝正 (京大)
山田 勝久 (横浜南共済病院)
香川 弘太郎 (兵庫県立子ども病院)
坂口 亮 (整肢療護園)
松山 栄吉 (愛育病院)
雨森 良彦 (日赤医療センター)

先天股脱を減少させるためには、新生児期・乳児期になるべく股関節に負担のかからない肢位をたもたせること、新生児期・乳児期の股関節の異常を早期に発見し、適切な処置をほどこすことが必要である。このため、適切な検診システム・診断基準をつくることが必要であり、股関節を保護するための養護上の注意を一般に普及させることが大切である。

本研究班では、昨年度、研究班発足以前から全国数か所で行われてきた。新生児・乳児の自然肢位と自然な運動をさまたげないようという指導の結果、先天股脱の発生を減少させることができたという成績をふまえて、検診システムと診断基準案を作成し、また、おむつ・おむつカバーについて、子どもの下肢の動きを制限しないおむつのあて方として股だけにおむつをあてる方法が有効であること、股おむつに適したおむつカバーのデザインについての検討を行った。

また、新生児期の身長測定の際、足をのばすときに無理な力を加えないよう、赤ちゃん体操など下肢に他動的な力を加えるとき無理をしないようななどの注意が必要であることを指摘したい。

また、本研究班の研究協力者のうち、整形外科部会で、昭和51年10月16日大阪で行われた第12回先天股脱研究会出席の整形外科医を対象にアンケート調査を行った。詳細は、雑誌「整形外科」28巻2号に「先天股脱予防に関する第一次アンケート調査の集計結果について」(石田勝

正他)として掲載されているが、概要を紹介しておく。

集計結果

回答者数は総計126名である。

問1. おむつ指導(衣服・抱き方などを含む)をやっていますか?

回答 126通。「やっている」が91%。これらの指導の重要性が広く理解されてきているといえよう。

問2. おむつ指導の時期についてお答え下さい。

回答 114通。「新生児から指導」が62%。「乳児期からだけの注意をしている」が35%。

各職場の性格や立場上の問題もあるだろうが、出生時から注意すべきことであるという認識が深まりつつあるといえよう。

回答 116通。「股間だけにおむつを当てる指導」が81%。「三角おむつでもゆるく当てればよい」が11%。「どちらでもよい」が8%。

股間だけに当てる指導のほうがまちがいなく簡単で啓蒙に便利であり、81%の方はこのようにお考えのようである。「おむつだけの注意をする」が11%と少なく、おむつカバー、衣服、抱き方などおむつ以外にもなんらかの指導が行われているのが89%と大部分を占めている。

問4. 指導はどこでやっていますか。

回答 115通。病院で行われている場合が90%、保健所が29%であった。いろいろな機会をとらえて指導が行われているようである。

問5. 母親に対する指導はどなたがやっていますか?

回答 114通。医師が直接指導していることが多く、87%。このうち診療科別に回答された81通についてみると、「整形外科医だけが指導している」が93%で、「小児科医または産科医も関与している」が7%。先に述べたように関係のある各診療科の協力こそ今後の課題である。一方、パラメディカルの方による指導は63%(72通)で、この72通のうち、指導に看護婦参加74%、助産婦参加44%、保健婦参加38%となっている。これらパラメディカルへのアピールも今後とも必要であろう。

問6. 新生児検診をやっていますか？

回答 119通。「やっている」が50%。

問7. 新生児検診の資料をおもちですか？

回答 118通。「もっている」が35%。

問8. 予防活動実践の資料をおもちですか？

回答 116通。「もっている」が12%。

この回答から考えても、新生児検診からさらに一歩進めた予防の立場にたって先天股脱を観察し考えてゆくにふさわしい学問的背景がいまや十分整っているといえよう。

そこで本年度は、整形外科領域の医療施設に対するアンケート調査(資料1)と、保健所、及び産科、小児科を標榜する医療施設に対するアンケート調査(資料2)を実施した。

先天股脱生後成立の防止

第 2 次 アンケート

昭和53年 2 月

回答者氏名 (整形外科医)		機関		回答の 協力者	助産婦： 保健婦：	所属： 所属：
------------------	--	----	--	------------	--------------	------------

先天性股関節脱臼の成因の中で、生後肢位の扱い方が一つの成因であることは古くから知られていますが近年、生後第 1 日目から育児法を改善して、上記成因を取り除くと新生児期の股関節脱臼も乳児期の股関節脱臼も共に著しく減少することが実証されてまいりました。このような気運に乗って、自然肢位育児法への改善（先天股脱の予防）について、次のアンケートにお答え下さり 2 月 28 日までに御返信いただきますようお願い申し上げます。

尚、アンケートに御記入しにくいお答えの場合には、裏面に項目番号御記入の上自由に御意見をお書き下さい。

(厚生省先天股脱予防研究班 整形外科部会)
石田、香川、坂口、村上、山田(アイウエオ順)

(1) 貴病院の産科及び検診に出向いておられる産科(病院名: _____)において

(i) 自然肢位育児指導について……

- (a) 助産婦に理解を求めましたか？ (イ) はい (ロ) いいえ (ハ) これからする
- (b) 助産婦が理解を示していますか？ (イ) はい (ロ) いいえ (ハ) わからない
- (c) 助産婦が母親にこの指導をしていますか？ (イ) はい (ロ) いいえ
- (d) 助産婦は母親のどの時期に指導していますか？
(イ) 妊婦に対して (ロ) 産科入院時 (ハ) 母親の初回おむつ交換時 (ニ) 産科退院時
- (e) 指導用のパンフレットを使用していますか？ (イ) はい (ロ) いいえ

(ii) 貸しおむつについて……

- (a) 貸しおむつを利用していますか？ (イ) はい (ロ) いいえ
- (b) どんなデザインのものですか？ おむつとカバーの図を指定のカ所に描いて下さい。
- (c) 貸しおむつで自然肢位と自由な運動は妨げられていませんか？ (イ) いない (ロ) いる

(iii) 持参するおむつとおむつカバーについて……

- (a) 股間だけに当てるようにたたまれていますか？ (イ) はい (ロ) いいえ
- (b) 三角に折り横から巻くようにたたまれていますか？ (イ) はい (ロ) いいえ
- (c) おむつカバーが自然の肢位を妨げると判断されたときどうしていますか？
(イ)マジックやボタンのつけ方を工夫させる (ロ) 作りかえさせる
(ハ) 買いかえさせる (ニ) そのまを用いる

(iv) その他の産科における注意について……

- (a) ベビー服についても注意していますか？ (イ) はい (ロ) いいえ
- (b) 抱き方の注意もしていますか？ (イ) はい (ロ) いいえ

(2) 保健所において

(i) 貴病院から整形外科医が保健所に出向いておられますか？ (イ) はい (ロ) いいえ

(ii) その方の氏名、所属、保健所名をお知らせ下さい。

(イ) 氏名 _____ (ロ) 所属 _____ (ハ) 保健所名 _____ 府県 _____
名称 _____

- (iii) 出向している保健所で、保健婦の理解は得られていますか？
 (イ) はい (ロ) いいえ (ハ) 部分的
- (iv) 保健婦が母親教室（妊婦教室）で母親にこの指導をしていますか？ (イ) はい (ロ) いいえ
- (v) 保健婦が乳児を持つ母親に指導していますか？ (イ) はい (ロ) いいえ
- (vi) 保健所管内での産科医や助産婦の協力が得られていますか？
 (イ) いる (ロ) いない (ハ) 部分的

(3) 地域ぐるみの活動について

- (i) この予防活動をしておられますか？
 (イ) はい……いつからですか？ _____年 _____月より (ロ) いいえ (ハ) これから
- (ii) どの職域団体の協力が得られていますか？
 (イ) 医師会 (ロ) 産科医会 (ハ) 助産婦会 (ニ) ベビー用品業者の会
 (ホ) 保健婦会 (ヘ) ホームヘルパーの会 (ト) 保母の会 (チ) 婦人会 (リ) 看護婦会
 (ク) その他：
- (iii) どのようにしてP.R.活動しておられますか？
 (イ) 地方新聞 (ロ) 団体機関新聞 (ハ) パンフレットを母子手帳にはさみ込む
 (ニ) 講習会 (ホ) 講演会 (ヘ) 母親教室 (ト) その他：
- (iv) 発生頻度の統計はとられていますか(乳児)？ (イ) はい (ロ) いいえ
- (v) 発生頻度の過去のデータは何年から残っていますか(乳児)？
- (vi) この活動をして乳児先天股脱の頻度は減少しましたか？
 (イ) はい (ロ) いいえ (ハ) わからない
- (vii) この頻度の変化についてデータがありましたらお教え下さい。

(4) その他

- (i) 乳児先天股脱の頻度は数年前に比し、減少したという印象をお持ちですか？
 (イ) はい (ロ) いいえ (ハ) わからない
- (ii) 今後どのような活動が大切とお考えですか？
 (イ) 育児書の改訂 (ロ) 婦人雑誌社の理解 (ハ) ベビー用品業者の協力
 (ニ) 教科書の改訂 (ホ) 母子健康手帳への記入 (ヘ) 行政面の協力 (ト) その他
- (iii) 冒頭の考え方に御異論ないし御追加がありましたら御記入下さい。

返信先：☎ 606 京都市左京区聖護院川原町 54

京大医学部整形外科 石田 勝 正

(2)-(iii)-(b) 貸しおむつの図	
おむつ	おむつカバー

回答者機関宛先
〒

資料 2

お 願 い

私共、先天股脱予防に関する研究班では、昭和51年以來、先天股脱予防のための方法、早期発見のための検診システムについて検討をづけ続けております。

この度、先天股脱の予防について皆様方のお考えをうかがい、あわせてこの問題に関する現状を知りたいと考え、別紙(返信用紙)のような質問票を作成いたしました。

お忙しい折、御面倒なお願いで申しわけございませませんが、どうぞよろしく御協力下さいませようをお願いいたします。

御返事は3月10日までにお願いいたします。

昭和53年2月

先天股脱予防に関する研究班

内 藤 寿 七 郎
澤 田 啓 司

(東京都港区南麻布5-6-8 愛育病院)

106

回答者氏名	所 属	職 位 (産、小、保、助、石)
		産科、助産、小児科、保、助、石

該当する項目の記号を○でかこんで下さい。

1. 先天股脱予防のため、おむつのあて方など工夫していますか。
a はい b いいえ

2. 1.aの場合、どのようになっているか、具体的に書き下して下さい。
おむつについて
おむつかぶさについて
衣服について
抱き方について

3. 1.bの場合、お考えの内容をお書き下さい。

- a 股脱予防に関心が無い
- b これまでのやり方でよい
- c これから考えてみたい

4. 股関節検査は、いつ、誰がしていますか。
()内、産は産科医、小は小児科医、整は整形外科、保は保健婦、助は助産婦、石は石渡婦の略です。該当する検査担当者○でかこんで下さい。

- a 出生当日(産、小、整、保、助、石)
- b 新生児室入院中又は退院時(産、小、整、保、助、石)
- c 1カ月健診時(産、小、整、保、助、石)
- d 3~4カ月健診時(産、小、整、保、助、石)

5. おむつのあて方についての母娘への指導はいつしますか。

- a 授乳後
- b 新生児室退院時
- c 1カ月健診時
- d 3~4カ月健診時

1) 資料1によるアンケートの調査対象は、厚生省育成医療指定機関及び250床以上の非指定機関の整形外科部長あてに1033通発送し、338通(33%)の返信を得た。アンケートは別紙の如くである。

アンケートの集計は表1の如くである。回答数に対するパーセントを()内に示した。尚10項目を抜粋して、全国を10地区に分けてそれぞれを表2の如く集計した。

以下主要な点について説明を加える。

まず、自然育児指導に対して助産婦が理解を示しているのが、実に87%と高く、特に地域差はない(1)-(i)-(a)。育児に直接従事する職業であることから推察して、高い関心と理解を示すのは当然であろう。

助産婦同様、保健婦の理解も高率に得られている(2)-(iii)。出生時から股間だけに当てる方法は、北陸、東海、近畿、中国、四国によく普及して、90%前後がこの当て方である。これに比べて、東北、関東、九州では、わずか半数強の普及率である。熱心に予防活動をしているグループのある地方ではよく普及しているのであろうか。北陸では魚津保健所の飯田、田島ら、東海では知多保健所の伊藤、山田ら、近畿では伏見保健所における石田らの提唱や神戸市における荻原・香川ら中国では広島大学の檜田ら、四国では徳島大学の和田らによる活動がある。東北、関東、九州で普及率の低い理由は不明であるが千葉県水戸市以外予防活動が地区グループによって未だ取りあげられていない地方であることは注目に値する。

この出生時から股間だけにおむつを当てる方法の普及率と、(4)-(i)項の先天股脱が減少したという印象の率を照合してみると、股間だけのおむつのよく普及している、例えば東海、近畿では減少したという印象が強く、普及の少ない東北、関東九州では減少したという印象が少なくなっている。勿論、印象についてのアンケート項目なので、出生時からのおむつの当て方の大切さを暗示しているに過ぎない。

ここで必要になって来るのは、地域ぐるみの予防活動による頻度の変化についてのデータである。すでに京都、富山、愛知、徳島での予防活動によ

り頻度の減少したという学会報告があるが、(3)の(i)(ii)(iii)項にみられるように、74件において予防活動が始められており、これから活動を行なおうとしておられる方を含めると121件にも達する。そして、統計をとりながらこの活動を開始しておられるのが60件あり、すでに25件が減少していると解答している。活動をはじめたばかりなのでまだ頻度の減少についてはわからないとするのが28件あり、今後、予防に関する多数の発表が行われると期待できる。

(4)-(ii)項にみられるように、今後の活動として大切と考えられることとしては、育児書の改訂、母子手帳への記入、行政面の協力、ベビー用品業者の協力等が強く要望されている。

(4)-(iii)項で、予防の考えに異論を述べた回答はなかったが、小児科や産科領域の理解が一層深められるようにとの希望が多かった。

II) 資料2によるアンケートの調査対象は、全国の保健所、産科小児科を有する150床以上の病院、産科または小児科を標榜する150床以下の病院であり、1490通送付し506通(34.0%)の返信を得た(表3)。

地域別、施設別にみると、先天股脱予防のために、おむつのあて方に工夫しているという回答は保健所に高率で(96.9%)、産科、小児科医は約65%であり、地域別では北海道、関東、中部、近畿で高く、東北、中国、四国、九州で低率であった。この結果は、資料1にもとづく整形外科サイドの集計結果に一致する(表4)。

おむつのあて方としては、股おむつ法が保健所の指導では54.9%、産科・小児科では30%強で、股間を厚くとか、従来のT型三角形のままでも自然肢位を保たせる方法とかがそれについて多かった(表5)。

おむつカバーについては、股間を巾広くし腰まわりを細くした新しい型のものがかなり広く普及している(表6)。

衣服のつけ方、だき方にも注意するようという指導もよく行われている(表7・8)。

股脱予防のための工夫していないという回答は、保健所に少なく、産科・小児科では約1/3であったが、全く不必要という回答は少く、これから考

えてみたいという答が半数を占めている（表9）。

股関節検診は出生当日は、産科医、助産婦によって行われ、整形外科医による検診は少ない。新生児室退院時には、やはり産科医による検診が多いが、小児科医、整形外科医による検診の頻度も高くなってきている。一か月健診時は小児科医、産科医、整形外科医による検診の比率が3：2：1となっている。3～4か月健診時は、整形外科医が全検診の40%程度に関与している数字とな

っている。（表10）

おむつのあて方についての母親への指導は、いろいろな機会をとらえて広くおこなわれている。（表11）

結 論

民間レベルで順調にすすめられている先天股脱の予防活動を、行政的な立場からどのようにしてこれを支持し、指導してゆくかが今後早速に決められねばならない課題であろうと思われる。

表1 先天股脱生後成立の防止
第2次アンケート調査結果

発送総数 1033通
返信総数 338通
返信率 33%

項 目		
(1) 貴病院の産科及び検診に向いておられる産科において		
(i) 自然股位有児指導について………		
(a) 助産婦に理解を求めましたか	(イ) はい	185 (83)
	(ロ) いいえ	21 (9)
	(ハ) これからする	17 (8)
(b) 助産婦が理解を示していますか	(イ) はい	189 (87)
	(ロ) いいえ	5 (2)
	(ハ) わからない	24 (11)
(c) 助産婦が母親にこの指導をしていますか	(イ) はい	182 (82)
	(ロ) いいえ	39 (18)
(d) 助産婦は母親のどの時期に指導していますか	(イ) 妊婦に対して	37 (14)
	(ロ) 産科入院時	36 (14)
	(ハ) 母親の初回おむつ交換時	99 (38)
	(ニ) 産科退院時	86 (33)
(e) 指導用のパンフレットを使用していますか	(イ) はい	63 (30)
	(ロ) いいえ	147 (70)
(ii) 貸おむつについて………		
(a) 貸しおむつを利用していますか	(イ) はい	137 (66)
	(ロ) いいえ	71 (34)
(b) 貸しおむつで自然股位と自由な運動は妨げられていませんか	(イ) いない	115 (83)
	(ロ) いる	24 (17)

項 目		
(Ⅲ) 持参するおむつとおむつカバーについて………		
(a) 股間だけに当てるようにたたまれていますか		
	(f) はい	146 (74)
	(h) いいえ	52 (26)
(b) 三角に折り横から巻くようにたたまれていますか		
	(f) はい	52 (28)
	(h) いいえ	131 (72)
(c) おむつカバーが自然の肢位を妨げると判断されたとき どうしていますか		
	(f)マジックやボタンのつ け方を工夫させる	86 (37)
	(h) つくりかえさせる	30 (13)
	(r) 買いかえさせる	99 (43)
	(=) そのまま用いる	15 (7)
(Ⅳ) その他の産科における注意について………		
(a) ベビー服についても注意していますか		
	(f) はい	159 (71)
	(h) いいえ	64 (29)
(b) 抱き方の注意もしていますか		
	(f) はい	174 (80)
	(h) いいえ	43 (20)
(2) 保健所において		
(i) 貴病院から整形外科医が保健所に出向いておられますか		
	(f) はい	123 (41)
	(h) いいえ	176 (59)
(iii) 出向いている保健所で保健婦の理解は得られていますか		
	(f) はい	109 (81)
	(h) いいえ	6 (4)
	(r) 部分的	20 (15)
(Ⅳ) 保健婦が母親(妊婦)教室で母親にこの指導をしていますか		
	(f) はい	107 (80)
	(h) いいえ	26 (20)
(Ⅴ) 保健婦が乳児を持つ母親に指導していますか		
	(f) はい	122 (90)
	(h) いいえ	14 (10)
(Ⅵ) 保健所管内での産科医や助産婦の協力が得られていますか		
	(f) いる	77 (45)
	(h) いない	22 (13)
	(r) 部分的	71 (42)
(3) 地域ぐるみの活動について		
(i) この予防活動をしておられますか		
	(f) はい	74 (25)
	(h) いいえ	171 (59)
	(r) これから	47 (16)

項	目	
(ii)	どの職域団体の協力が得られていますか	
	(イ) 医師会	23 (14)
	(ロ) 産科医会	17 (11)
	(ハ) 助産婦会	21 (13)
	(ニ) ベビー用品業者の会	4 (3)
	(ホ) 保健婦会	53 (33)
	(ヘ) ホーム・ヘルパーの会	3 (2)
	(ト) 保母の会	5 (3)
	(チ) 婦人会	4 (3)
	(リ) 看護婦会	13 (8)
	(ク) その他	17 (11)
(iii)	どのようにしてP.R.活動しておられますか	
	(イ) 地方新聞	11 (7)
	(ロ) 団体機関新聞	9 (6)
	(ハ) パンフレットを母子手帳にはさむ	21 (13)
	(ニ) 講習会	26 (16)
	(ホ) 講演会	29 (18)
	(ヘ) 母親教室	35 (22)
	(ト) その他	35 (22)
(iv)	発生頻度の統計はとられていますか(乳児)	60 (32)
	(イ) はい	60 (32)
	(ロ) いいえ	129 (68)
(v)	この活動をして乳児先天股脱の頻度は減少しましたか	
	(イ) はい	25 (46)
	(ロ) いいえ	1 (2)
	(ハ) わからない	28 (52)
(4)	その他	
(i)	乳児先天股脱の頻度は数年前に比し、減少したという印象をお持ちですか	
	(イ) はい	203 (66)
	(ロ) いいえ	29 (9)
	(ハ) わからない	75 (24)
(ii)	今後どのような活動が大切とお考えですか	
	(イ) 育児書の改訂	167 (52)
	(ロ) 婦人雑誌社の理解	83 (26)
	(ハ) ベビー用品業者の協力	135 (42)
	(ニ) 教科書の改訂	86 (27)
	(ホ) 母子健康手帳への記入	156 (48)
	(ヘ) 行政面の協力	153 (47)
	(ト) その他	13 (4)
(iii)	冒頭の考え方に御異論ないし御追加がありましたら御記入下さい	
	(イ) 解答あり	65 (20)
	(ロ) 解答なし	258 (80)

()内%

表2 先天股脱生後成立の防止 第2次アンケート調査結果(抜粋)

項目	総計	北海道	東北	関東	信越	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州沖縄
(1) 産科の産科及び検診に向いておられる産科において	189(87)	15(84)	12(71)	47(81)	7(100)	7(100)	34(94)	28(88)	11(79)	12(100)	16(84)
(1) 自然分娩指導について……	5(2)	0(0)	1(6)	1(2)	0(0)	0(0)	1(3)	0(0)	0(0)	0(0)	2(11)
(b) 助産婦が理解を示していますか	24(11)	1(6)	4(24)	10(17)	0(0)	0(0)	1(3)	4(12)	3(21)	0(0)	1(5)
(ii) 貸しおむつについて……	137(66)	11(65)	8(47)	43(78)	5(63)	5(71)	9(36)	23(70)	13(87)	6(55)	14(70)
(a) 貸しおむつを利用していますか	71(34)	6(35)	9(53)	12(22)	3(38)	2(29)	16(54)	10(30)	2(13)	5(45)	6(30)
(iii) 持参するおむつとおむつかみについて……	146(74)	12(75)	8(57)	26(53)	5(63)	7(100)	33(92)	25(89)	9(82)	11(92)	10(59)
(a) 股間だけに当てるようにたたき込まれていますか	52(26)	4(25)	6(43)	23(47)	3(38)	0(0)	3(8)	3(11)	2(18)	1(8)	7(41)
(b) 三角に折り痕から巻くようにたたき込まれていますか	52(28)	3(20)	7(50)	24(52)	2(33)	0(0)	2(6)	1(4)	3(25)	3(27)	7(41)
(ii) 貸しおむつについて……	131(72)	12(80)	7(50)	22(48)	4(67)	6(100)	29(94)	24(96)	9(75)	8(73)	10(59)
(i) 保健所において	109(81)	3(60)	12(75)	28(80)	5(71)	5(100)	15(94)	22(88)	5(86)	3(100)	11(79)
(iii) 出向いている保健所で保健婦の理解は得られていますか	6(4)	0(0)	2(13)	1(3)	1(14)	0(0)	0(0)	0(0)	2(22)	0(0)	0(0)
(ii) 部分助産婦	20(15)	2(40)	2(13)	6(17)	1(14)	0(0)	1(6)	3(12)	2(22)	0(0)	3(21)
(vi) 保健所内での産科医や助産婦の協力が得られていますか	77(45)	1(14)	4(24)	11(34)	3(43)	1(20)	4(27)	10(42)	5(50)	5(63)	33(73)
(ii) いない	22(13)	1(14)	3(18)	5(16)	1(14)	1(20)	5(33)	1(4)	1(10)	1(13)	3(7)
(ii) 部分的	71(42)	5(71)	10(59)	16(50)	3(43)	3(60)	6(40)	13(54)	4(40)	2(25)	9(20)
(3) 地域ぐるみの活動について	74(25)	6(35)	9(39)	12(15)	2(17)	4(67)	4(10)	12(33)	13(39)	5(29)	7(24)
(1) この予防活動としておられますか	171(59)	10(59)	9(39)	55(70)	8(67)	2(33)	32(80)	22(61)	16(48)	8(47)	9(31)
(ii) これから	47(16)	1(6)	5(22)	12(15)	2(17)	0(0)	4(10)	2(6)	4(12)	4(24)	13(45)
(iv) 発生頻度の統計はとられていますか	60(32)	4(27)	9(45)	13(27)	2(18)	3(43)	2(11)	11(44)	5(42)	4(33)	7(37)
(ii) いない	129(68)	11(73)	11(55)	36(73)	9(82)	4(57)	17(89)	14(56)	7(58)	8(67)	12(63)
(vi) この活動をjして乳児先天股脱の頻度は減少しましたか	25(46)	3(100)	3(38)	6(50)	1(50)	1(33)	1(50)	5(50)	1(25)	3(75)	1(17)
(ii) いない	1(2)	0(0)	1(13)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
(ii) わからない	28(52)	0(0)	4(60)	6(50)	1(50)	2(67)	1(50)	5(50)	3(75)	1(25)	5(83)
(4) その他	203(66)	15(83)	14(56)	49(58)	9(69)	3(50)	40(80)	34(87)	13(59)	9(47)	17(57)
(1) 乳児先天股脱の頻度は数年前に比し減少したという印象をお持ちですか	29(9)	1(6)	2(8)	9(11)	2(15)	1(17)	3(6)	1(3)	5(13)	1(5)	4(13)
(ii) わからない	75(24)	2(11)	9(36)	27(32)	2(15)	2(33)	7(14)	4(10)	4(28)	9(47)	9(30)
発送数	1,033	74	144	258	47	28	121	106	75	54	126
返信数	338	18	30	92	14	9	52	41	25	21	36
返信率(%)	33	24	21	36	30	32	43	39	33	39	29

但: (3) (iv) に関しては(3) (iv) において(ii)と答えた者のみの数字であり

(ii)と答えておきながら(3) (iv)に答えなかった者もある。

()内%

表3 アンケート回収状況

	保健所	産科	小児科	繰計
送付数	458	1032		1490
有効返送数	256	144	106	506
回収率%	55.9	24.2		34.0

表4 先天股脱予防のため、おむつのあて方など工夫していますか。

a. はい b. いいえ ()内%

地域名	a. はい										b. いいえ										州	計
	北海道	東北	北	関東	東	北	陸	中東	部海	近畿	中国	四	国	九	州	沖	繩					
保健所	16	23		55	15	44		42	12	13	36	256										
回答数	15(938)	23(1000)		53(96.4)	15(1000)	44(1000)		41(97.6)	12(1000)	13(1000)	32(88.9)	248(96.9)										
a. はい	1(6.3)			2(3.6)				1(2.3)				8(3.1)										
b. いいえ																						
産科	10	16		29	11	20		17	14	8	19	144										
回答数	8(800)	8(500)		20(67.0)	10(90.9)	13(65.0)		16(94.1)	9(64.3)	3(37.5)	10(52.6)	97(67.4)										
a. はい	2(200)	8(500)		9(31.0)	1(9.1)	7(35.0)		1(5.9)	5(35.7)	5(62.5)	9(47.4)	47(32.6)										
b. いいえ																						
小児科	10	13		24	8	11		9	13	4	14	106										
回答数	8(800)	7(53.8)		16(66.7)	4(500)	8(72.7)		8(88.9)	8(61.5)	2(500)	8(57.1)	69(65.1)										
a. はい	2(200)	6(46.2)		8(33.3)	4(500)	3(27.3)		1(11.1)	5(38.5)	2(500)	6(42.9)	37(34.9)										
b. いいえ																						
総計	36	52		108	34	75		68	39	25	69	506										
回答数	31(86.1)	38(73.1)		89(82.4)	29(85.3)	65(86.7)		65(95.6)	29(74.4)	18(72.0)	50(72.5)	414(81.8)										
a. はい	5(13.9)	14(26.9)		19(17.6)	5(14.7)	10(13.3)		3(4.4)	10(25.6)	7(28.0)	19(27.5)	92(18.2)										
b. いいえ																						

(先天股脱予防研究班 昭和53年2月)

表5 工夫していますか? はい

(1) おむつについて

()内回答総数に対する%

	保健所	産科	小児科	総計
回答総数	233	86	65	384
股おむつ	128(54.9)	27(31.4)	22(33.8)	177(46.1)
巻おむつ廃止	11(4.7)	9(10.5)	5(7.7)	25(6.5)
股間を厚く	18(7.7)	8(9.3)	13(20.0)	39(10.2)
従来通り(T型・三角)	22(9.4)	8(9.3)	7(10.8)	37(9.6)
その他*	10(4.3)	8(9.3)	8(12.3)	26(6.8)
整形外科に依頼	1(0.4)	0(0.0)	0(0.0)	1(0.3)
これまでのやり方でよい	4(1.7)	3(3.5)	3(4.6)	10(2.6)
特になし	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
回答なし	56(24.0)	29(33.7)	11(16.9)	96(25.0)

表6

(2) おむつカバーについて

()内回答総数に対する%

	保健所	産科	小児科	総計
回答総数	177	69	50	296
新しい型	83(46.9)	18(26.1)	20(40.0)	121(40.9)
従来型	46(26.0)	11(15.9)	11(22.0)	68(23.0)
巻おむつカバー廃止	15(8.5)	8(11.6)	6(12.0)	29(9.8)
その他*	3(1.7)	7(10.1)	3(6.0)	13(4.4)
整形外科に依頼	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
これまでのやり方でよい	3(1.7)	1(1.4)	0(0.0)	4(1.4)
特になし	1(0.6)	2(2.9)	3(6.0)	6(2.1)
回答なし	34(19.2)	28(40.6)	10(20.0)	72(24.3)

表7

(3) 衣服について

()内%

	保健所	産科	小児科	総計
回答総数	144	23	31	198
工夫している	111(77.1)	14(60.9)	15(48.4)	140(70.7)
従来通り	13(9.0)	5(21.7)	1(3.2)	19(9.6)
その他*	2(1.4)	0(0.0)	0(0.0)	2(1.0)
整形外科に依頼	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
これまでのやり方でよい	1(0.7)	0(0.0)	1(3.2)	2(1.0)
特になし	3(2.1)	3(13.0)	11(35.5)	17(8.6)
回答なし	15(10.4)	1(4.3)	3(9.7)	19(9.6)

表 8

(4) 抱き方について

()内%

	保健所	産科	小児科	総計
回答総数	156	31	32	219
工夫している	111(71.2)	19(61.3)	20(62.5)	150(68.5)
従来通り	4(2.6)	0(0.0)	0(0.0)	4(1.8)
その他*	2(1.3)	0(0.0)	0(0.0)	2(0.9)
整形外科に依頼	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
これまでのやり方でよい	1(0.6)	0(0.0)	0(0.0)	1(0.5)
特になし	6(3.8)	6(19.4)	8(25.0)	20(9.1)
回答なし	32(20.5)	6(19.4)	4(12.5)	42(19.2)

表 9 工夫していますか? いいえ

()内回答総数に対する%

	保健所	産科	小児科	総計
返送総数	256	144	106	506
回答総数	8	47	37	92
股脱予防に関心がない	0	4(8.5)	2(5.4)	6(6.5)
これまでのやり方でよい	3(37.5)	14(29.8)	10(27.0)	27(29.3)
これから考えてみたい	5(62.5)	26(55.3)	20(54.0)	51(55.4)
整形外科に依頼	0	1(2.1)	2(5.4)	3(3.3)
回答なし	0	2(4.3)	3(8.1)	5(5.4)

表 10-1 股関節検診は、いつ、誰がしていますか?

a. 出生当日

()内回答総数に対する%

	保健所	産科	小児科	総計
返送総数	256	144	106	506
回答総数	39	87	44	170
産	32(82.0)	61(70.1)	28(63.6)	121(71.2)
小	4(10.3)	5(5.7)	14(31.8)	23(39.1)
整	5(12.8)	1(1.1)	4(9.0)	10(5.9)
保	4(10.3)	0	0	4(2.4)
助	12(30.8)	32(36.8)	8(18.1)	52(30.6)
看	4(10.3)	2(2.3)	2(4.5)	8(4.7)
回答なし	1(2.6)	0	0	1(0.6)

表 10-2

b. 新生児室入院中又は退院時

()内回答総数に対する%

	保健所	産科	小児科	総計
返送総数	256	144	106	506
回答総数	43	120	71	234
産	32(74.4)	78(65.0)	27(38.0)	137(58.5)
小	8(18.6)	17(14.2)	37(52.1)	62(26.5)
整	8(18.6)	29(24.2)	16(22.5)	53(22.6)
保	3(7.0)	2(1.7)	0	5(2.1)
助	11(25.6)	23(19.2)	4(5.6)	38(16.2)
看	3(7.0)	3(2.5)	3(4.2)	9(3.8)
回答なし	1(2.3)	2(1.7)	1(1.4)	4(1.7)

表 10-3

c. 1ヵ月健診時

()内回答総数に対する%

	保健所	産科	小児科	総計
返送総数	256	144	106	506
回答総数	80	128	85	293
産	36(45.0)	67(52.3)	7(8.2)	110(37.5)
小	32(40.0)	47(36.7)	76(89.4)	155(52.9)
整	13(16.3)	27(21.0)	13(15.3)	53(18.1)
保	27(33.8)	3(2.3)	0	30(10.2)
助	13(16.3)	5(3.9)	0	18(6.1)
看	2(2.5)	0	0	2(0.7)
回答なし	0	2(1.6)	1(1.2)	3(1.0)

表 10-4

d. 3~4ヵ月健診時

()内回答総数に対する%

	保健所	産科	小児科	総計
返送総数	256	144	106	506
回答総数	246	92	95	433
産	4(1.6)	19(20.7)	3(3.2)	26(6.0)
小	150(60.9)	48(52.2)	77(81.0)	275(63.5)
整	123(50.0)	39(42.4)	34(35.8)	196(45.3)
保	64(26.0)	7(7.6)	1(1.1)	72(16.6)
助	8(3.3)	2(2.2)	0	10(2.3)
看	4(1.6)	0	0	4(0.9)
回答なし	1(0.4)	0	2(2.1)	3(0.7)

表 11 おむつのあて方について、母親への指導は
いつしますか？

()内回答総数に対する%

	保健所	産科	小児科	総計
返送総数	256	144	106	506
回答総数	249	137	100	486
a. 母親学級で	223(89.6)	36(26.3)	24(24.0)	283(58.2)
b. 新生児室退院時	16(6.4)	119(86.9)	54(54.0)	189(38.9)
c. 1カ月健診時	37(14.9)	23(16.8)	43(43.0)	103(21.1)
d. 3～4カ月健診時	173(69.4)	7(5.1)	33(33.0)	213(43.8)
e. 回答なし	7(2.8)	7(5.1)	6(6.0)	20(4.1)

↓
検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります
↓

先天股脱を減少させるためには、新生児期・乳児期になるべく股関節に負担のかからない肢位をたもたせること、新生児期・乳児期の股関節の異常を早期に発見し、適切な処置をほどこすことが必要である。このため、適切な検診システム・診断基準をつくることが必要であり、股関節を保護するための養護上の注意を一般に普及させることが大切である。